

向上心

川崎市立橋中学校
新聞委員会 緑ブロック
編集長 前田杏紗
学校新聞8号「海」特集号
令和5年10月19日

今年度の学校理想像
志を高く持ち、
皆で創り上げる
愛のある学校

10月7・8日 第50回川崎みなと祭りでエンジョイ!

テーマ ～皆で「海」と「みなと」を楽しもう!～

10月7・8日に第50回川崎みなとまつりが川崎マリエン・東扇島東公園で開かれました。今回はアニバーサリーとなる第50回の開催となりました。そこで、川崎の伝統的なお祭りの一つである「川崎みなとまつり」を特集してみました。行けなかった人も写真で堪能してください。(永井)



川崎みなと祭りを知っている人は...

川崎みなとまつりを橋中生はどのくらい知っているのでしょうか。1年～3年生約100人にアンケートしたところみなとまつりを知っている人は一人もいませんでした。これは橋中が高津区にあり、川崎港から少し離れた位置にあること、近年のコロナ禍でみなと祭りが開かれていなかったことが原因と思われる。

今回第50回のアニバーサリーということで、前号で紹介したので、興味を持ち、参加した人もいたのではないのでしょうか。今回参加したところ、オープニングから華麗なダンスが披露され、会場には楽しいマスコットも子供達と遊んでいました。

全国都市かわさきフェアPRブースで緑の大切さを知ろう!

今回のみなと祭りでは全国都市緑化かわさきフェアPRブースが出展されました。全国都市緑化フェアとは、国民一人一人が緑の大切さを認識し、緑豊かな都市づくりを進めることを目的とし、毎年、全国各地で開催される花と緑の祭典です。



オープニングセレモニーとマスコット

川崎市市制100周年記念PRブースで「好き」を形にしていこう!

川崎市は令和6年度に市制100周年を迎えます。その記念として川崎市市制100周年記念事業PRブースが展開されました。これは「好きをあつめ、かけあわせていく」をテーマに行われるまちづくりイベントです。多摩川では、昔多く行われていた「登戸の渡し」が1日限定で復活します。川崎区にあるキングスカイフロントでは、中学生を対象にした世界最先端の研究エリアの施設見学ができるイベントが開催されます。

COLORS
FUTURE!
ACTIONS
KAWASAKI 100th



川崎港の様子



海上自衛隊「くろべ」

港には海上保安庁の「拓洋」や海上自衛隊の「くろべ」が停泊していました。また、川崎純情小町やさかなクン、かわさき鬼滅キッズも来ていました。モルック体験やじゃんけん大会もありました。今回みなと祭りに行けなかった人で「海」や「船」に興味を持った人は、今後参加してみませんか。(安道)

川崎港の港湾計画改訂から約10年

川崎港の港湾計画が平成26年の11月に改訂され、約10年がたちます。そこで、川崎港港湾計画について調べてみました。(中田)

川崎港の役割分担は国内輸送の拠点

「京浜港の総合的な計画」によると京浜港における川崎港の役割分担としては、以下の4つとなっており、アジアの輸入貨物の取り扱い拠点になっており、完成自動車の東日本の輸出拠点であり、国内輸送の拠点にもなっています。

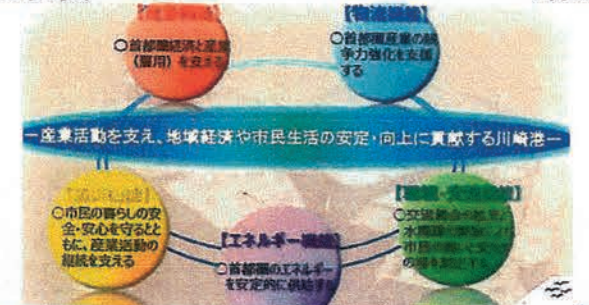
- ①アジアの再編・拡充による物流機能の強化
- ②在来貨物や専用貨物の強みを活かした総合的な物流拠点
- ③完成自動車の東日本の輸出拠点・国内郵送拠点
- ④首都圏の住民生活・産業活動を支えるエネルギー拠点

なお、川崎港の役割及び将来像をまとめると右のようになります。皆さんも川崎港の将来を考えてみませんか。

川崎港の港湾計画の方針は?

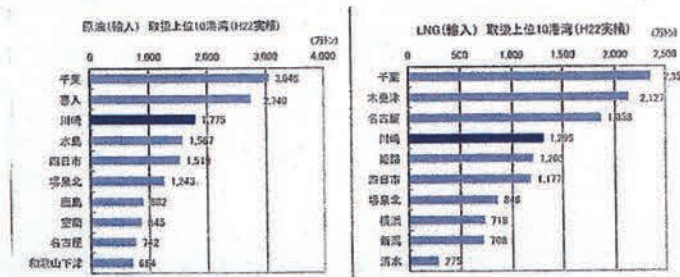
川崎港は「産業活動を支え、地域経済や市民生活の安定・向上に貢献する川崎港」を実現するため次の4つの方針を決めました。

- ①港湾機能の再編・拡充による物流機能の強化
- ②大規模地震発生時の支援機能の強化
- ③エネルギー供給機能の維持・支援
- ④港湾空間の特色を活かしたアメニティ空間の充実 (有馬)



現在も川崎港は総貨物量は全国7位

川崎港の総貨物量は平成22年度で全国7位だそうです。主要品目の原油が3位、LNGは4位、石油が3位、石炭が9位、鉄鉱石が10位、完成自動車が5位と全体的に高く、その他の主要品目もトップ10に入っています。現在、総貨物量は全国7位となっています。(前田)

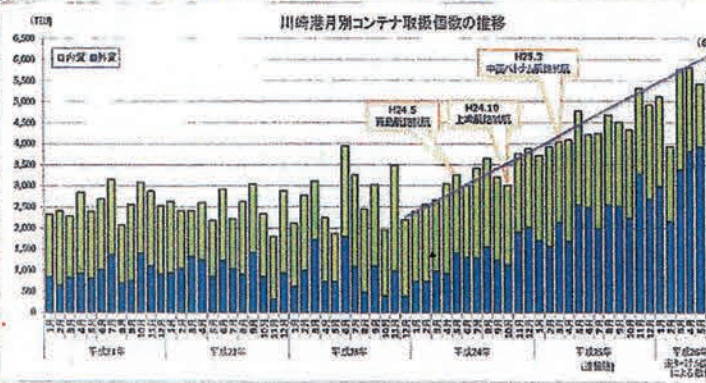


海上貨物輸送のメリットは重量制限がなく、大量に安く運べることです。デメリットとしては時間がかかってしまうことです。

平成24年以降、外貨コンテナ定期航路が新規に3航路増加したため、下のグラフのように貨物量が順調に増加しています。

日本とヨーロッパでは一ヶ月かかる輸送工程も、今後は京浜港における効率的な貨物輸送が行われるため、川崎港の存在が更により大きくなりそうです。(和栗)

航路増設によるコンテナ貨物の増加



全学年100人調査 海の自然を守ることはなぜ大切?

私たち橋中生はSDGsの14「海の豊かさを守ろう」についてどのように思っているのか1年生から3年生の約100人にアンケートを取りました。海の豊かさについて考えている人はどれくらいいたのでしょうか。(前田・和栗)

海の自然を守ることが大切だと思う人は55%

私たちの海の自然に対する意識はどの程度のものでしょうか。橋中は高津区にあり、海から少し離れています。そのような環境のためか、6号でのアンケートにもあったように、海や港周辺での出来事はあまり知る機会が少ないようです。

今回のアンケートで海の自然を守ることへの意識を調査したところ、右のグラフのような結果となり、海の自然を守ることが大切、と感じている人は約半数でした。これは中学生としては少し少ない数字です。川崎市は東京湾に面してお

り、多摩川は東京湾に注いでいます。その多摩川は私たちにも身近な存在です。そのように考えると海への繋がりも身近なものと感じられるかも知れません。

また、今福島県沖の原子力発電所の汚染水の海への放出がニュースになっていますが、これについても考えていけると良いですね。

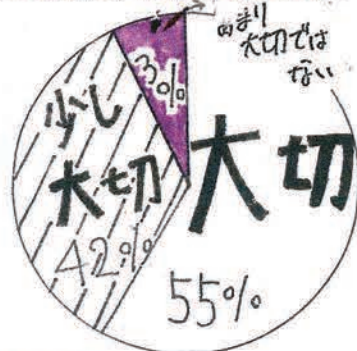
SDGsを意識していない人が45%

そこで、SDGsの1つである「海の豊かさを守ろう」についてどの程度意識しているかを調査しました。その結果、右のグラフのように、約半数の人がSDGsの活動の1つであることを意識していなかったようです。

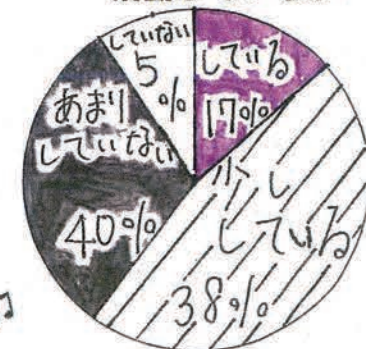
屋の放送でもよく流れているSDGsの歌詞には「世界は大きくて私たちは小さいけれどその世界を毎日変えている 私たちがかわったら 今日が変わったら 明日



海の自然を守る事は大切か



海のSDGsを意識しているか



が変わったら 世界はつづく」とあります。2023年の世界をより良い世界にするために今皆が考え、行動することが求められています。

ではなぜ、今のままではいけないのでしょうか。最近、世界ではカナダやヨーロッパ、ハワイでの山火事による大災害、中国

での大規模な洪水、アメリカでの大規模なハリケーン、北極や南極での氷河の崩壊等、様々な問題が起きています。このことは人間だけではなく全ての生物へ大きな影響を及ぼしています。今すぐに取り組まないととても大変なことになる、と科学者から提唱されているのです。

海を守るためには

「私たちが海の豊かさを守るためにすべきことは「陸の豊かさを守ること」です。

なぜなら陸の豊かさと海の豊かさは密接な関係にあるからです。

森林を守ることで、陸の土壌が豊かになり、川を通して海に流れ、海の豊かさに繋がります。

逆に海の豊かさが破壊されることにより地球温暖化が進んでしまい、大雨や台風の発生が多発し、結果的に陸の生態系を壊してしまいます。また、身近な事では浜辺でのごみのポイ捨てなどの事例があります。

今日からでも、陸の問題に目を配り身近な問題を解決していきながら海の豊かさを守りましょう。

(和栗)



日本有数の物流を誇る川崎港



川崎港に出入りしている舟は年間2万隻にもなります。写真のように大きい船も来ているようで、総重量は7千万tくらいになります。川崎港の歴史は昭和から続いています。第二次世界大戦後、政府は食料事情の悪化に伴い、



食料、肥料の輸出を計画しました。そして、昭和26年6月1日、川崎市は港湾管理者となり、それと共に川崎港が誕生しました。

また、平成16年4月には東扇島西公園が、平成20年3月には災害時の基幹的広域防災拠点としての機能を発揮する、東扇島東公園が開



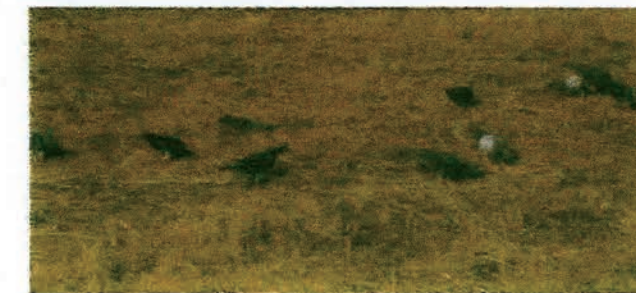
川丸くん

しました。平成4年にオープンした川崎マリエンは体育室、バーベキュー場、川崎みなと祭りの会場として多くの市民に利用されています。

多摩川のプラスチックごみ問題を考える

多摩川のプラごみがひどい

夏休みに多摩川付近の自然環境について調べてみました。写真のようにサギや鳩、カルガモ等の多くの鳥や生物が生息していることが分かりました。それと同時に川や河原付近に落ちているたくさんのゴミが目立ちました。これは人の行動が原因です。



沢山の様々な種類の鳥が住んでいる多摩川

SDGs12 つくる責任つかう責任

ゴミの多くは人が作ったものです。作るだけ作って回収しないと、地球環境を破壊することになります。私たちの意識を変えることで美しい川崎にしていきましょう。

(永井)



川や河原にペットボトル等のゴミが散乱している

後記

10月も下旬になり、紅葉も華やかになってきて肌寒く感じる日も増えてきました。体調を崩さないよう気をつけてください。

次号は橘翔祭や70周年記念式典についてお届けする予定です。(前田)